

くろつち便り

今月の内容

新年の挨拶(会長)/反戦・反核平和運動/日米訓練反対(11/13)/学習会&忘年会(11/23)/野草折々73(サツマギク)/料理教室(12/8)/学校現場28/ごてれつ34/ハンセン病問題講演会(11/10)/

次回全曜集会は2/2日/17:00



↑会報QRコード

今年も元気出していきましょう！



くろつち会会長 松尾広豊美
明けましておめでとうございます

地球は病んでいる。
地球の温暖化ではなく、
まさに沸騰化の時代に

入ったと思わせるような
夏の異常な気象が続き、新年を
迎えたが一転して異常なまでの
豪雪に見舞われています。鹿屋
も連日の冷え込みで庭の水槽は
よく氷がみられます。

さて、昨年の衆議院選挙は自
民党の大敗で少数与党となり、
今後少しでもいい方向に向かっ
てくれると私は期待をしています。
今年度行われる参議院選挙

で今の自民党政権に
戦争反対、脱原発と
いう断固とした意思表示をしな
ければなりません。

私たちくろつち会も高齢化が
進み、昨年実施した忘年会はい
つものように盛り上がりました
が出席者がだいふ少なくなって
きました。私たちの生活を送る
上でくろつち会の仲間が近くに
いることを意識していただけれ
ばと思います。皆さんが一同に
会する取り組みをもっと増やし
ていければと思っています。

今年も元気出していきましょう。

共助会GG大会

期日 2月16日(日)
予備日 2月23日(日)
かのやGG場 Dコース
参加料 300円
受付 12:30~13:00
開会式 13:00~13:10
申込〆切り 2月7日
(詳細は別途案内で)

退職者を励ます会

「励ます会」はしばらく
開催されませんでした。が、
今年は計画されています。

2月22日(土) 18時~
受付 17時30分
さつき苑 会費 ¥5500
(くろつちから千円補助あり)

口までのわずかな時間
だが朝食のことや最近
の出来事を語る。それ
でも時々体当たりが来
ない時もある。少し心
配はするが誰でも毎朝
同じ調子...と言うこと
はない。毎日毎日元氣
に登校できることの素
晴らしさである。もち

う元気な声で迎えてく
れるのだろうけど、そ
の子の迎えは少し違
う。児童玄関入口から
走ってきて思いっきり
体当たりをするのだ。
昨年担任した子どもで
現在4年生。体も一回
り大きくなって、タッ
クルを受け止めるのも
なかなかだ。職員室入

員室の入口まで向かう
とき、毎朝決まって迎
えてくれる子どもがい
る。普通なら「おはよ
うございます!」と言



寿北小 駐車場 車を
に停め職
関下俊郎

学校現場から
シリーズ その28

た私も何処へ行ったか
「...と。」
採用志望の際そろえ
なければならぬ書類
がある。その中に「免
許更新受講証明」とや
らが必要だと分かった。
そんなもの「次は必要
ないだろう。」と思っ
た私も何処へ行ったか

「臨時任用」になる。
迷いに迷ったがとりあ
えず面接を受けてみた。
面接当日、担当職員が
指さす方を見ると、学
校現場の教員不足を示
す黒板があった。学校
名と空白の欄を見なが
ら、いかに厳しい現状
かを語る担当が口にし
たこと、「希望して頂
き本当に感謝していま
す。...と。」

ろん私たち
教員も同じ
ことなのだ
ろう。
年が明けると次の勤
務校も気になり始める。
今年度で再任用期間を
終了して来年度から

分らない。県教育委
員会に再発行できない
か事務所に問い合わせ
てみると、県の方では
できないということだっ
た。方法としては自分
が教員免許状を授与し
た県の教育委員会から
証明をもらうこと、と
いうことだった。あれ
ほど強制的に更新させ
ておいてこんなときの
対処もしてくれない。
私は茨城県の大学卒業
なので茨城県の教育委
員会に問い合わせ、申
請しなければならぬ
ことになる。当然日数
もかかるが「何んとか
しますから...」とい
う事務所の返事だった。
...と言うわけで、
来年度も現場で動き回
るためのエネ
ルギーを年末
年始にかけて
十分補充した
ところである・



暫定再任用...パート⑦



共助会料理教室



2024年12月8日(土)午前、鹿屋市東地区学習センター調理室にて共助会主催の料理教室が開催されました。参加者は20名、その内「くろつち」からは女性ばかり4名の参加でした。講師は東串良の宮地直子さん、メニューはキンパ・鶏胸肉の焼南蛮漬け・キノコのかつおぶし和えです。

わたしはこのキンパに誘われて有明小時代の同僚二人と参加しました。この日作ったキンパのご飯の味付けはお酢は入れずにゴマ油と塩だけで、海苔は日本の巻き寿司用のものを使いました。具材のほうれん草、人参、たくあんもそれぞれゴマ油と塩で味付け、牛肉は焼き肉のたれを使う簡単なものでした。

お味はバッチグー。キンパは一人二本作ったので、お持ち帰りもありました。

来年は会員の参加者が増えて交流の場になるといいなあと思うことでした。(文 永吉浩子)



ハンセン病問題講演会

～ハンセン病問題の過去・現在・未来～

昨年11月10日、リナシティで表題の講演会がありました。体調を崩されていた原告の上野正子さんが回復されて、今年の開催に漕ぎ着けたんだそうです。(共に歩む会主催、鹿屋市共催、市教育委員

会・自治会・敬愛園後援) 松下徳二さんの挨拶で、勝訴を勝ち取るまでの苦労話の中で、上野さんは初めの頃車酔いが激しくて熊本地裁への往復が大変だったというエピソードが明かされました。今では語り部として何処へでも行けるそうです。

体質改善に繋がるほど活動を広げてくれたという証左です。で頭が下がる思いがします。

徳田靖之弁護士は講演の中で、裁判を始めたきっかけからその後の運動の広がり、初めの頃は自治会の協力も

得られず大変だったことなど話されました。

後半の鼎談の中で上野さんは思わぬ形で敬愛園に入所させられた日からこれまでの体験や取組を語り、繰り返し、弁護士さんへの感謝を述べられました。(樋園)



徳田弁護士



松下徳二さん

上野正子さん

徳田弁護士



野草折々-73-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

サツマノギク
(キク科)



自生するキク科植物。

葉の表面は緑色で白く縁どられている。

(円内は、白く縁取られた葉)

写真は飯山宅 坊津で採集

2005年11月



2005

能登半島地震復興支援報告

11/23日くろつち会学習会

講師 岩元伸司さん

報告 野口幸司郎

松屋会長「大災害の発生、復興の遅れ、地球の沸騰化。着実に進む南西諸島の軍事基地化・要塞化。私たち高齢者が反対の声を上げ続けられない限りこの動きは止められない。」

中馬美樹郎市議「本年度から給食費が無償化に。市民のために予算の有効活用を」

学習会は「能登半島地震復興支援報告」と題して鹿屋市社会福祉協議会の岩元伸司さんが講演。

岩元さんは5月珠洲市災害ボランティアセンター（以下VC）に派遣された。地震から5カ月過ぎても町の様子は震災当時と変わらない状況。水道は断水のまま、避難所は多

くの被災者が。珠洲市災害VCでは被災者のニーズとボランティアとをつなぎ被災者の生活再建（日常の回復）にボランティアの力を届けることに腐心した。

被災者の多くは「みんなが我慢しているのに自分だけお願いできない」「自分のことだからやっぱり自分で何とかしないと」等々我慢や遠慮が。さらに災害によって受けた精神的負担にもボランティアの働きかけが必須。「足湯、炊き出し、声掛け、マッサージ、健康チェック、こども支援」等一人ひとりに寄り添ったボランティアが。

珠洲市ではこのVCの運営を珠洲市社会福祉協議会が担っていた。他県からの支援者がこのVCでうまく活動できたのには当

協議会の平時のネットワークの存在が大きいとのこと。

地震から一年が経過している今、復興は必ずしも進んでいるようには見えない。9月に起きた能登豪雨でさらに状況が悪化した。

私たちが暮らす大隅地区は能登と同様に半島という地形であり、南海トラフ地震そして津波、また頻発する集中豪雨等が懸念されている。

今回の講演や能登地域の映像を見るにつけ、自分たちが突然の災害に直面した時どう行動できるのか不安を覚える。予想される災害に備えて今すべきは何だろうか。たとえ空

振りになろうとも耐震構造・避難・備蓄等々の備えを怠らないようにしたいと思う。



忘年会

11月23日、学習会の後5年ぶりの忘年会です。



上蘭さんの音頭で乾杯。あちこちで互いのジョッキを触れ合やす音が響いた。

しばらくするとあちこちに車座が出現。お互いの近況を語ったり健勝を讃えたりしていた。年齢の話が出て、参加



者の中での最高齢は、たしか98才だったと思うが、くろつちの誇りだし目標です。

日高さんの音頭で組合歌。



♪かがや〜く朝の〜♪雲と〜めて♪



最後は飯山さんの「団結ガンバロウ」でお開きになったが、語り足りない人たち数名、残って談笑していました。

能登へ義援金

会場で能登災害への寄付を募りました。結果3万7千円が集まりました。

反戦・反核平和行動

さつま町に着々と弾薬庫配備計画を進めている一方で鹿屋では日米訓練が昨年11月14・15日に実施された。(写真、13日野里での反対集会)

自分たちで出来るのは、地道な反対運動だけだ。その一つが毎月一回の金曜集会。

12月6日、初冬の寒さの中で実施。後方イベント会場では屋台村(商工会青年部主催?)が出来ていて、何人もの客の前で「川内原発廃止!」「日米訓練反対!」などシュプレヒコール。来ていた客にも少しは届いただろうと信じたい。(左下写真)

今年最初の金曜集会は正月ということもあり、第2金曜日の10日に延期して実施した。寒波の影響で、この日は朝から凍えるような寒さだった。17時頃は気温5°前後で、微風とは言えこの時期の北寄りの微風は身に堪える。いつもより少ない人数だったが、全員で

声を張り上げた。

保守党議員の裏金問題、いかに国民を騙そうかと苦心惨憺している姿は見苦しい。また原発問題、ひとたび事故があれば県全体に広がるはず。

シュプレヒコール

「金権政治家はやめろ!」

「お金で政治を進めるな!」

「川内原発直ちに廃止!」

道行く車の中にも届けとばかりに声を張り上げた。(樋園)



ぶつくさ言うの御用

34

真実の終わり

ーイエイツ「再臨」

テレビを見ていると今年の目標という語が頻繁に聞かれる。自分は、と考えるあれこれ思案してみるがダメだ。どれも達成できそうにないものばかりだ。願望ならいくらでもあるが、実現できそうにないので目標にできない。その一つが低学年でもできるような書斎の片付けだ(右下絵願望)。

書斎で行方不明になったものが多々ある。例えばどこか足元に落とした無線マウス。近くにあるはずだが落下音のした辺りにはない。仕方ないので別のパソコン用の有線マウスを代用していたが、数週

間後、思いがけず椅子の後方下で発見した。

それから昨年2万円で購入したばかりの読書用の老眼鏡。これはふた月以上経った今でも発見できていない。そのうちマウスと同様ひょんなことで見つかるだろうと高を括っている。というのもマウスのように端なくも見つかる場合がこれまでも何回となくあったからだ。

その一つに一昨年四百円で購入の中古本「真実の終わり」(ミチコ・カクタニ、集英社)がある。中を開くと読んだ形跡がない。急ぎ目を通した。

1次トランプ政権の最中に執筆されていて、当時の米国社会の世相

に警鐘を鳴らした本で、当然ながら驚くほど日本社会にも当てはまる事が分かる。

その中から抜き書きすると「真実への冒涇と略奪」「民衆は、無制限の権力を求める指導者達の嘘や偽りの約束を受け入れる」

「事実が軽んじられ感情が理性に取って代わる」などなど、またアイルランドの詩人イエイツの「再臨」の一節「世界は秩序を失って/混沌たる状態に陥っている」を引用していた。(再臨…キリストの復活)

現状を見ると、執筆当時よりますます混沌さが増し、2次トランプ政権の登場だ。またそれに追従する日本。

最後に「簡単な解決

策などない」「市民が抵抗することは不可欠だ」と述べて、行動を暗に促している。

さてここも混沌たる状態の我が書斎。イエイツの詩「政治」(集英社イエイツ詩集に収録)冒頭に「あの娘がそこに立っているのにどうして(スペインなど他国の独裁)政治を気にしていられよう」という一節がある。これは反語で、あの娘(僕にとっては書斎の混沌)より大事な問題があるだろう、あの娘のことは今は構えない、と勝手に解釈して(そのことばを言い訳にして)しばらくは書斎の混沌さはほうっておこう。

(樋園)

(願望→)

